

七番日記2

小林一茶著・文政元年（一八一八）年八月の項。

八月

一晴

二晴

三晴

光院丁善法院泊

四晴

飯綱山上不動堂粟飯掘

三好二入

五晴

六晴

長沼通アサノ二入

○よい世とや虫が鈴ふり鳶がまふ

一しめり人ハ祈るぞきりぐす

○一葉ヅゝつひニくりく坊主哉

一しめり有間の山の夕立ハ

別（て）涼しき月のかげ哉

虫どもハ身をしる雨としらざるや

戸隠山

鬼の寝た穴よ朝から秋の暮

未刻雷雨夜不止 六月十六日 春庵崎や龜の子笹になく蛙
大雨ヨリ五十日目也ト云々 床の間の杖よわらじよ秋の暮れ

註 国会図書館デジタルコレクション「一茶叢書 第4編 下巻」(DOI
10.11501/1186695) 古今書院刊 127 コマ目と 128 コマ目。永続的識別子
[info:ndljp/pid/1186695](http://info.ndljp/pid/1186695)。